

しじゅうから



まだまだ間に合う 冬鳥ウォッチング

この冬は比較的、鳥たちでぎやかな月が続きました。小鳥の森では毎日、園内で観察された野鳥を記録していますが、11月から月毎に見てみると、11月が42種、12月が40種、1月が39種となっており、昨年の11~1月の平均35種よりも多くなっています。

日頃観察していく中でも、鳥が多いなと感じますが、実際に数字で表してみても多い結果となりました。今季は何が多いかというと、ウソとカケスです。ウソは数年に1回程度、当たり年の年があります。声だけの確認のこともありますが、それでも確認される頻度が高く、ネイチャーセンター付近で確認されることもあります。カケスは小鳥の森では、例年、秋の渡りの時期に群れが一時的に確認されることが多いですが、今季は冬の間、10羽

程の群れで行動している姿がよく見られます。カケスにおいては、見られない

日がないぐらいです。カケスはこう見えてと言ったら、失礼かもしれません。

カラスの仲間です。カラスの仲間なんですが、真黒な姿ではなく羽の一部が青のシマシマでとてもおしゃれな鳥です。意外と警戒心があって、なかなか写真を撮ってくれないのが玉に瑕ですが。

また、それ以外でも色々な野鳥が見られていて、冬に見られる野鳥として人気のあるトラツ

グミやルリビタキもよく観察されています。今季は若干背中の羽の先端が茶色の若い個体ですが、青いオスがやってきています。

冬鳥が楽しめる時期も残り1ヶ月ほどですが、まだまだ冬鳥を楽しめるチャンスは残っています。野鳥は年によって見やすい見にくいがありますので、今季見やすい鳥を探しに来てみてはいかがでしょうか。

トラツグミ

ルリビタキ

ウソ



イベントあるよ

●環境保全ボランティア

カタクリ自生地の整備(竹刈り)

日時：2月7日(土) 9時30分～12時

対象：18歳以上

定員：10名

持ち物：手袋、長靴、汚れても良い服装、帽子、飲み物

●オオムラサキの幼虫観察会

越冬中の幼虫を落ち葉から探して様子を観察してみよう

日時：2月14日(土) 10時～12時

対象：小学生以上

定員：15名

持ち物：手袋、長靴、汚れても良い服装、帽子、飲み物

※どちらも1月31日(土)から電話にて申込開始

たからもの 森の宝物探し

小鳥の森で宝物（自然の中の生き物）を見つけることができたらオリジナル缶バッジをプレゼントしています。その日に見つける宝物が何かをネイチャーセンターで確認して、写真を撮ってレンジャーに見せるとミッショングクリア！

今月の生き物はコレ

ルリビタキ(オス) (ヒタキ科)



どこからともなく「ヒツ、ヒツ」と聞こえてきたら、それはジョウビタキかルリビタキが近くにいる証拠です。ジョウビタキは「ヒツヒツ」のあとに「カツ、カツ」と鳴き、ルリビタキは「クツ、クツ」と鳴きます。「ヒツ、ヒツ」と聞こえてきたら、そのあと鳴き方にぜひ耳を澄ませてみてください。ルリビタキはその名の通り、オスはとてもきれいな瑠璃色(るりいろ)をしています。その美しさから、「瑠璃三鳥」の一種として数えられています。しかし、この瑠璃色はすぐになれるわけではありません。ふ化してから初めての冬はまだオリーブ色でほとんどメスと区別がつきません。2年目で少し青くなってきて、完全な美しい瑠璃色は3年目の冬からです。もし森の中で美しい瑠璃色のオスに出会えたら、3年も厳しい自然環境の中で生き抜いてきたんだなと思ってください。

ルリビタキは漂鳥で、夏は亜高山帯の林で繁殖し、冬になると低いところに降ります。比較的暗い場所を好みますが、時々見通しの良い場所に出てきて、地面の虫などを探して食べています。縄張り意識の強い鳥なので、オスメス同士も争ったりします。一度自分の縄張りが決まれば、規則正しくその場所を動き回るので、観察しやすいかもしれません。見つけたときはそっと遠くから見守ってくださいね。

福島市小鳥の森（ネイチャーセンター）

最新情報はこちら

《入場無料》休館日：毎週月曜日

（祝祭日の時はその翌日）

開館時間：午前8時30分～午後5時

福島市小鳥の森通信「しじゅうから」2026年2月号No.474／企画・発行：福島市小鳥の森（指定管理者 NPO法人野鳥の会ふくしま）

しじゅっぴーのつぶやき

バレンタインと野鳥の深い関係



2月の行事といえば、**バレンタインデー**。皆さんはチョコをあげたり、もらったりした経験はありますか？もともとバレンタインデーは諸説ありますが、ローマの皇帝の命に背き、兵士の結婚を執り行っていた、聖人バレンチヌスの処刑された命日にちなみます。ヨーロッパでは、恋人たちが愛を分かち合う日とされていて、日本のようにチョコを送る文化はありません。

では、鳥との関係はどうでしょう？実は大ありなんです！ちょうどこの時期、鳥はつがいを探し始める季節で、ヨーロッパの民間俗信に「2月14日はツバメがつがいになる日」とされていて、そこから「この日に最初に出会った人が将来の結婚相手」という言い伝えが生まれたそうです。

他にもこの日に見かけた鳥についての俗信があるので、ちょっとだけ書き出します。



青い鳥(ルリビタキなど)
幸せをもたらす男性と結婚できる



黒い鳥(カラスなど)
聖職者や牧師と結婚

スズメ
貧しいが優しい男性と結婚できる



フクロウ
2月14日にこの鳥を見た女性は結婚しない方がよい

さて、信じるか信じないかはあなた次第です！

しじゅっぴークイズ：2月3日は節分ですが、鬼が苦手なものに、ある鳥がいます。さてどれでしょう？

- ①ニワトリ ②タカ ③カラス ④スズメ

